

【校 訓】

百練自得 (困難に屈しない強い志で自己の目標を必ずや達成する)

百 練 : 基礎的なことを繰り返し練り上げること。

自 得 : 百練の結果得たものが自在に活用できること。

【教育目標】

主体的に考え、自律的に行動する生徒の育成

【スクール・ポリシー】

I 育成を目指す資質・能力に関する方針

「主体的に考え、自律的に行動する生徒」を育成するため、次の資質・能力の向上を図る

- 1 「百練自得」の校訓のもと、チャレンジ精神をもち、何事にも粘り強く取り組む力
- 2 国際的な広い視野をもち、多様性を認める豊かな人間性を育み、自らの考え・意志を発信する力
- 3 人との関わりの中で、他者を認め、協働し、信頼し合い、地域社会に貢献する力
- 4 学習と部活動を両立させ、自己実現のため、自分自身で未来を切り拓く力
- 5 幅広い知識と高い学力をもち、物事の本質・真理を見極め、自ら適切な判断をくだす力

II 教育課程の編成及び実施に関する方針

- 1 生徒が諦めずに努力し続けることができるスモールステップを意識した教育活動
- 2 生徒が自ら考え、発表する教育活動
- 3 生徒が積極的に人や社会と関わる教育活動
- 4 生徒が自らの生き方を考える教育活動
- 5 生徒が学ぶことの楽しさを実感できる教育活動

III 入学者の受入れに関する方針

- 1 本校の教育方針を理解し、本校で自分を成長させたい生徒
- 2 進学をめざし、何事にもチャレンジ精神を持って、妥協しない生徒
- 3 学習と部活動の両立をめざし、苦難を乗り越えようとする生徒
- 4 労を惜しまず、地域のために貢献できる生徒
- 5 深い学びに関心を持ち、様々な学習イベントに参加する意欲のある生徒

【学年テーマ】

- 1年：広げる・・・世の中には多様な価値観があることを知り、視野を広げ、自分の世界を広げる。
- 2年：深める・・・自分の興味・関心や適性を考えながら、知識や思考を深める。
- 3年：実現する・・・蓄積した知識や思考をもとに、自分の進路を実現する。

【今年度の重点目標】

「全てにチャレンジ」

自分の可能性を信じ、えり好みせず、何事にも果敢に挑戦（チャレンジ）する。

令和8年度 愛知県立岡崎西高等学校 学校経営方針

校訓：百練自得 (困難に屈しない強い志で自己の目標を必ずや達成する)
教育目標：主体的に考え、自律的に行動する生徒の育成

スクール・ポリシー：

「主体的に考え、自律的に行動する生徒」を育成するため、
次の資質・能力の向上を図る

- 1 「百練自得」の校訓のもと、チャレンジ精神をもち、何事にも粘り強く取り組む力
- 2 国際的な広い視野をもち、多様性を認める豊かな人間性を育み、自らの考え・意志を発信する力
- 3 人との関わりの中で、他者を認め、協働し、信頼し合い、地域社会に貢献する力
- 4 学習と部活動を両立させ、自己実現のため、自分自身で未来を切り拓く力
- 5 幅広い知識と高い学力をもち、物事の本質・真理を見極め、自ら適切な判断をください力

今年度の重点目標
「全てにチャレンジ」

勉強・部活動・学校行事全てに一生懸命に取り組ませることにより、
知・徳・体のバランスの取れた生徒の育成を目指す。

○失敗を恐れず、挑戦することを促す場の創出

学校を、「生徒が常に高い目標をもち、それに向かい挑戦できる場」とする。そのためにも、「失敗は、成長の糧となる」という共通認識のもと、失敗を恐れずに様々な挑戦させる。

同時に、自ら困難に立ち向い、鍛えようとする強い姿勢と精神力も養う。

○読解力、論理的思考力、表現力の育成

文章・情報・状況を的確に読み取り（読解力）、それをもとに正確かつ論理的に分析・理解し、（論理的思考力）、それを他者に適切に伝える力（表現力）を育成することに努める。この視点に立ち、各教科で、教科横断的に深い学びの授業の実践に取り組む。

○進路実現に向けて確かな学力を身に付けさせる

目の前の進路にとどまらず、将来にわたり常に学び続け、自己実現できる学力を養う。

○情報化社会で生き抜く力の育成

情報リテラシーの向上を目指す。また、情報モラルの育成に努める。

○協調性と社会性を養う

思いやりの心をもち、協力して物事を成し遂げる姿勢を育成することにより、協調性と社会性を養う。

○部活動指導の充実を図る

部活動ガイドラインを踏まえながら、効率的で自律的な活動の中で、「質」の高い指導を行う。

○多忙化解消に向けて取り組む

- ・主任・副主任の連携を軸としたチームワークにより、学校全体の業務の平準化を図る。
- ・業務を精選し、会議の効率化を図るとともに、情報やデータの共有を推奨する。
- ・教職員が知見を広め、余暇を楽しみ、家族や友人と過ごす時間の保障とともに、このような時間がよりよい教育を行うために必要であるという認識を全ての教職員で共有する。